

## 小学校の審議まとめ

### 1. 小学校の適正規模・許容範囲

#### ○適正規模

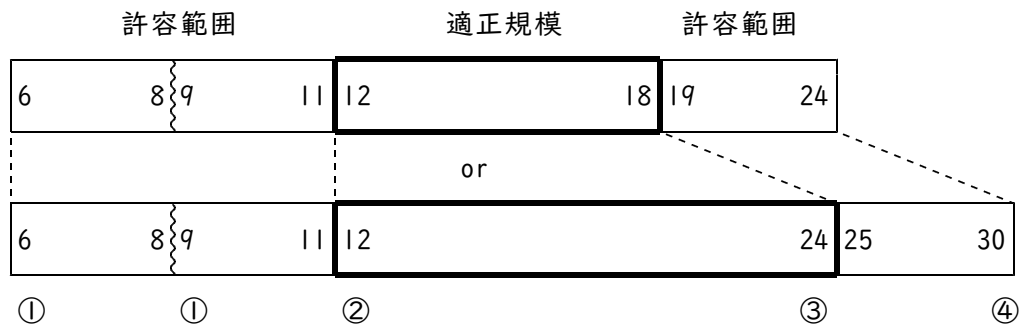
- 12学級～18又は24学級（1学年2学級～3又は4学級）
- ・全学年でクラス替えができるよう12学級以上が望ましい
- ・学校の運営、集団の把握がしやすいよう18～24学級以下が望ましい

#### ○許容範囲※

- ・複式学級にならない6学級から、半分の学年がクラス替えできる9学級を下限とする
  - ・施設利用や安全確保の面から、適正規模の上限より6学級増までを上限とする
- ※今後の児童生徒数や、学級数の推移を注視しなければならない規模を、許容範囲とする

### 2. 小学校の審議結果

#### 【望ましい学級数】



#### 【上記学級数とした理由や意見】

##### ①許容範囲の下限の理由（6～9学級）

- ・複式学級にならないように検討を開始する必要がある  
（より早い段階で、全ての学級で単学級になる前に検討するなら9学級）

##### ②適正規模の下限の理由（12学級）

- ・複数の学級で子供たちの交友関係を広げて欲しい
- ・人間関係を切磋琢磨できる環境づくりのためには学級替えが必要である
- ・できあがった序列のようなものを打破できる、新しい人間関係を構築できることが大事である
- ・人間関係の固定化は望ましくない

##### ③「適正規模の上限の理由（18～24学級）

- ・学級数が多い方が、少ない方と比較すると学校運営への影響が小さい
- ・今ある施設等を有意義に使っていくことが重要である
- ・3学級から4学級になった場合のデメリットは余り考えられない

##### ④許容範囲の上限の理由（適正規模より6学級増）

- ・31学級以上は大きすぎる
- ・少子化を考えると、規模が大きい場合の議論は必要かどうかだが、学校統合も視野に入れる必要がある
- ・規模が大きくなりすぎると学校行事の運営が大変であり、状況の把握も難しくなる
- ・規模が大きくなりすぎると全体をコントロールしていくのが非常に難しい
- ・施設使用の安全面を考慮すると、規模が大きすぎる場合は危険性がある

#### 許容範囲を設ける理由

- ・学年による人数の差を考慮する必要がある